

## 第6次中期経営計画（2021年4月～2024年3月）・初年度の進捗

2021年4月からスタートした第6次中期経営計画は「銀行をこえる銀行」をめざす第2フェーズと位置づけています。「どんな課題にも本気で向き合い、お客さまの期待をこえる銀行となる」べく、「地域における圧倒的な存在感の発揮とグループ機能の最大化」を基本方針に、3つの主要戦略に着手しています。

### 始動から1年を迎えた振り返り

#### 主要戦略 ① 中小企業分野への経営資源の集中投下

##### ● 地元企業へのサポート体制&コンサルティング機能の強化

新型コロナウイルス感染症による影響や、DX化などにより、地元企業を取り巻く環境は大きく変化しております。当行では、ITコンサルティングやSDGsコンサルティング、BCPコンサルティングなど、当行グループの強みを活かしたコンサルティングメニューの強化や地元地域の課題解決に資する活動を積極的に展開することで、事業性関連役務収益の増強をめざします。

##### 地元企業へのサポート体制

- 地元企業のニーズの多様化・高度化に対応したサポート体制を構築。



##### コンサルティング機能の強化（2022年3月期実績）

###### ITコンサルティングの体制拡充

- ・取引先のデジタル化、DXの高度化等に向けた伴走型支援を展開
- ・紀陽情報システムとの連携を強化

成約 **13** 件 収益 **104** 百万円

###### SDGsコンサルティングの取扱開始

- ・取引先である地元企業のSDGs達成に向けた取り組みを支援

成約 **47** 件 収益 **22** 百万円

###### 「BCPサポートデスク」の新設

- ・自治体や協力企業、当行取引先等と連携しながら地域や事業者に対して事業継続に関する啓発活動やBCP策定等をサポート

成約 **7** 件 収益 **6** 百万円

###### 事業再構築補助金申請サポート業務の取扱開始

- ・ものづくり補助金や事業再構築補助金など取引先の公的補助金活用をサポート

成約 **41** 件 収益 **73** 百万円（有償支援先数 **111** 先）

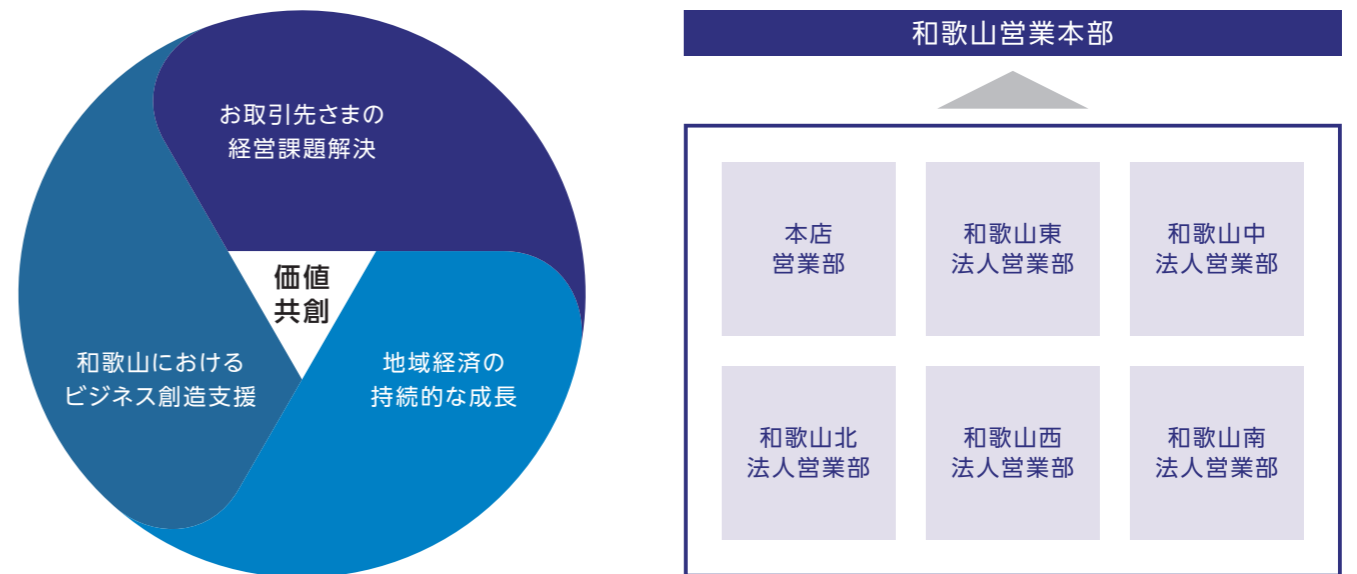
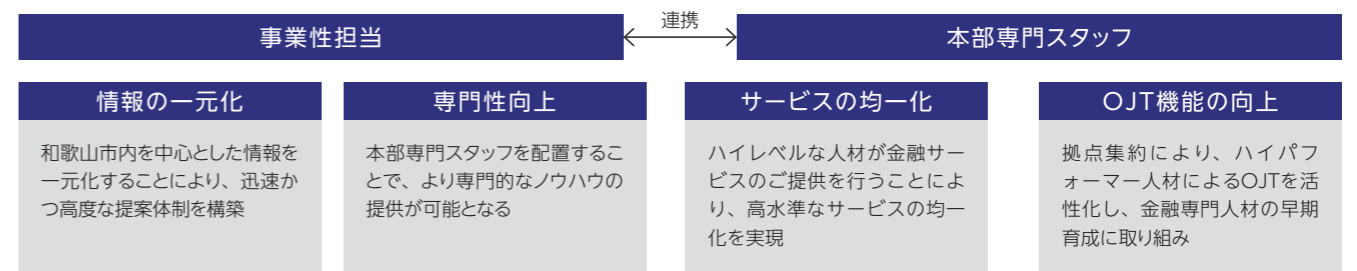
##### ● 店舗チャネル

WEBチャネルやキャッシュレス化の進展により、営業店窓口やATMの利用者数は減少傾向にありますが、インターネットバンキングやアプリの利用者数は拡大傾向が続いています。こうしたなか、当行では対面チャネルの適正化や非対面チャネルの構築を進め、経営の効率化と地域金融のインフラ維持を図り、当行の収益基盤である中小企業取引に経営資源を集中することで、事業性貸出取引をプラットフォームとした総合収益の拡大をめざします。

##### 和歌山営業本部の新設

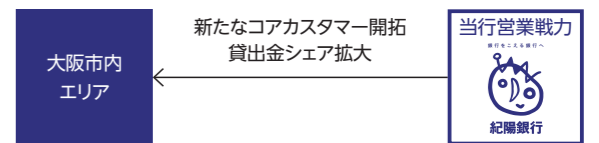
- 2021年7月、当行のマザーマーケットである和歌山市内の事業性にかかる各取引を一元的に担う部署として開設しました。
- 本部専門スタッフの配置や各本部との緊密な連携により、多角的かつ深度あるコンサルティング機能を発揮しています。

##### めざす姿 和歌山におけるビジネスの創造支援と地域経済の持続的な成長に貢献



##### 大阪市内エリアへの営業戦力の増員配置

- 中小企業取引特化型店舗であり、大阪市内中心部エリアに位置している大阪堂島営業部、事業性取引の新規開拓に特化した法人新規開拓室（大阪法人営業室）を中心に大阪市内エリアへ営業戦力を増員配置。
- 2021年度に新たに営業担当者 **19** 名を増員配置。



- ・大阪市内エリアにおける当行の存在感の向上と収益力拡大
- ・人材育成・強化による行内全体の組織力向上

##### 店舗統合、コミュニティプラザの開設

- 2021年9月、ランチインランチ方式により13店舗を移転統合し、店舗の集約により創出された経営資源を再配置しました。
- 2021年10月、ランチインランチ方式により10店舗を移転統合。店舗跡地に、預金業務、為替業務、諸届等の業務のみを取扱っている「紀陽コミュニティプラザ」を開設。業務の集約による効率的な営業活動を行うとともに、お客さまの利便性を維持しています。



始動から1年を迎えた振り返り

主要戦略 ② グループ機能を活用した新たな収益機会の創出

2020年8月、グループ収益の拡大およびグループガバナンスの強化を目的に「関連事業室」を設置しました。

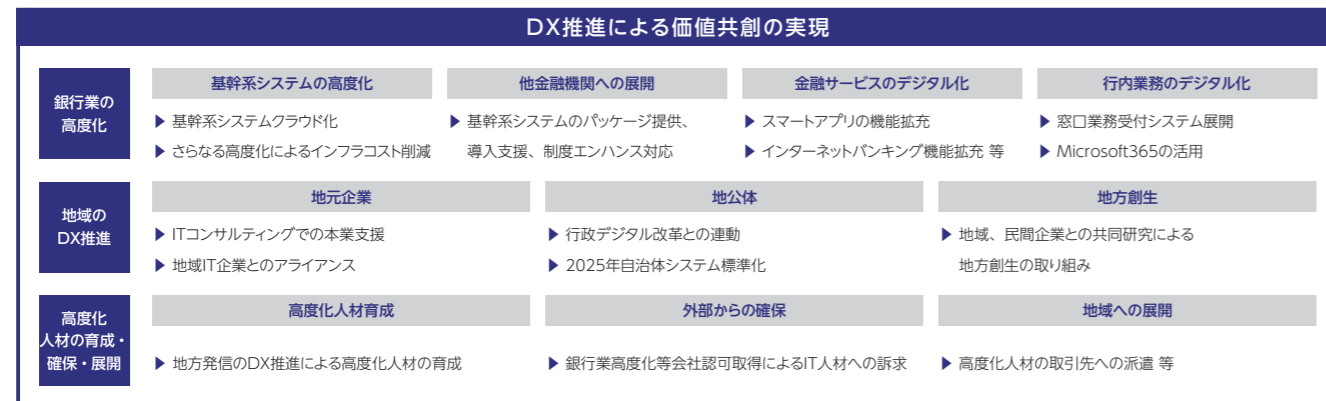
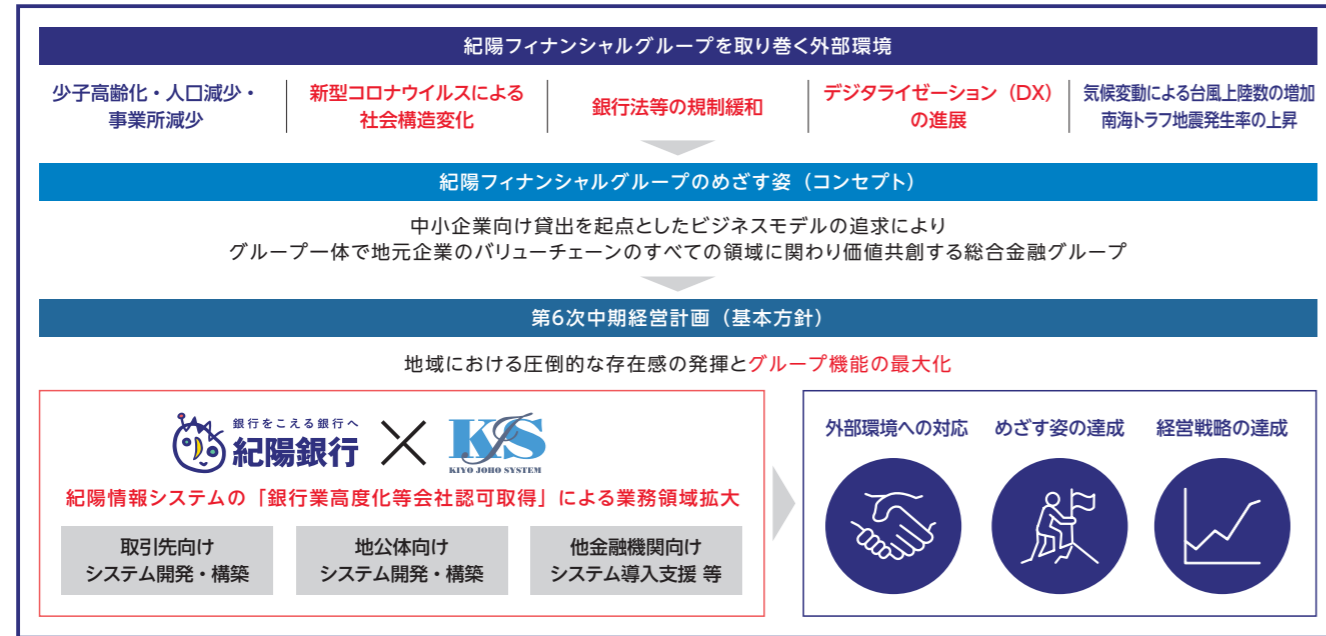
関連事業室では、サービスの多様化と高度化を進めるとともに、お客さまからのニーズに的確に対応する体制構築のため、グループ会社に関する事業の統括とグループシナジーの強化による収益力向上をめざしています。

また、2021年1月から当行行員を兼務出向者としてグループ会社に出向（ダブルハット）させるなど、グループガバナンスの強化にも取り組んでいます。

● 紀陽情報システム

- 2021年7月、紀陽情報システムが銀行業高度化等会社の認可を取得。
- 「デジタル戦略」を策定し、当行グループとして当行内の高度化、地域のデジタルトランスフォーメーション（DX）推進、高度化人材の育成・確保・展開等DXに対するデジタル戦略ビジョンを公表。
- 当行コンサルティング営業室と社との連携によるITコンサルティングを展開しており、連携による同社直接受託実績（2021年7月より2022年3月まで）は、コンサルティング3件36百万円、開発受託2件38百万円、その他3百万円の合計77百万円。
- 同社が持つノウハウやシステム開発力を地域に還元するなどDXに資する活動を行っています。

デジタル戦略ビジョン



●（事例）「令和3年度和歌山県デジタル経営診断環境構築業務」の受託

実施期間：2022年2月7日より2022年2月28日まで

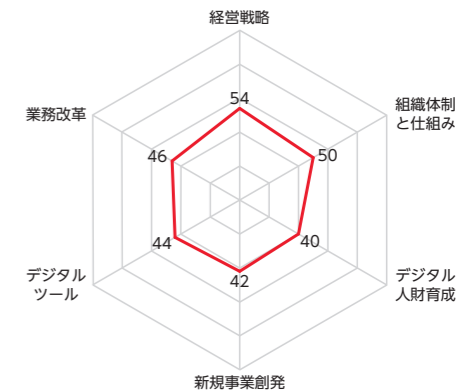
実施対象：当行取引先より和歌山県内に本社または事業所を有する製造業

実施方法：デジタル経営診断サイトによるオンライン診断

診断回答：168社



診断結果	平均点	最高点	最低点
1 経営戦略	54	92	20
2 組織体制と仕組み	50	88	20
3 デジタル人材育成	40	96	20
4 新規事業創発	42	84	20
5 デジタルツール	44	88	20
6 業務改革	46	96	20
7 総合得点	276	476	128



出典：和歌山県「デジタル経営診断試験診断の実施結果」

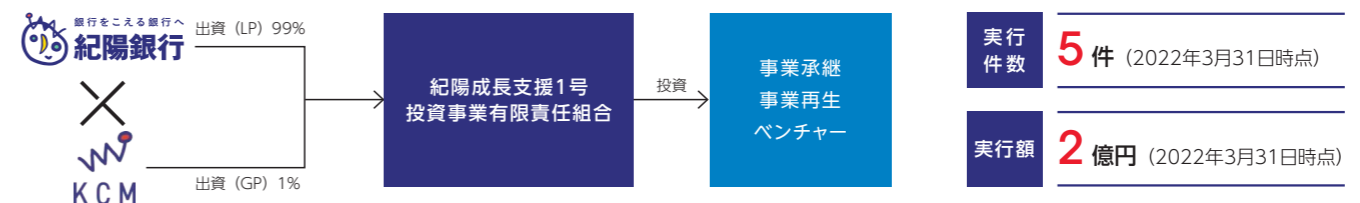
● 和歌山県DXチャレンジサポートプログラム

和歌山県は、県内企業のDXを推進するため、模範となるDXのロールモデルを創出し、その成功事例を集積・発信することで県内企業のDXを加速させることを目的に「DXチャレンジサポートプログラム」を実施しています。

2022年度は当行が業務を受託し、和歌山県などにより選定される県内企業3社に対し、DXに向けた伴走支援プログラムを展開しています。また取り組みについて県内に広く情報発信を行い、地域のDX推進に貢献します。

● 紀陽キャピタルマネジメント

- 2021年6月、紀陽キャピタルマネジメントにおいて事業承継や事業再生、ベンチャー企業の支援を目的とした「紀陽成長支援1号投資事業有限責任組合」を設立しました。
- 本ファンドの運営（GP）を行うなかで、地域企業の経営課題解決やベンチャー企業の育成・支援に資する活動を展開しています。



始動から1年を迎えた振り返り

主要戦略 ③ 戦略を実現するための人材育成と人事制度改革

● 人事制度改革

金融機関をとりまく環境が目まぐるしく変化するなか、地域のお客さまの多様なニーズにお応えしていくためには行員一人ひとりが最大限に能力を発揮することが不可欠です。

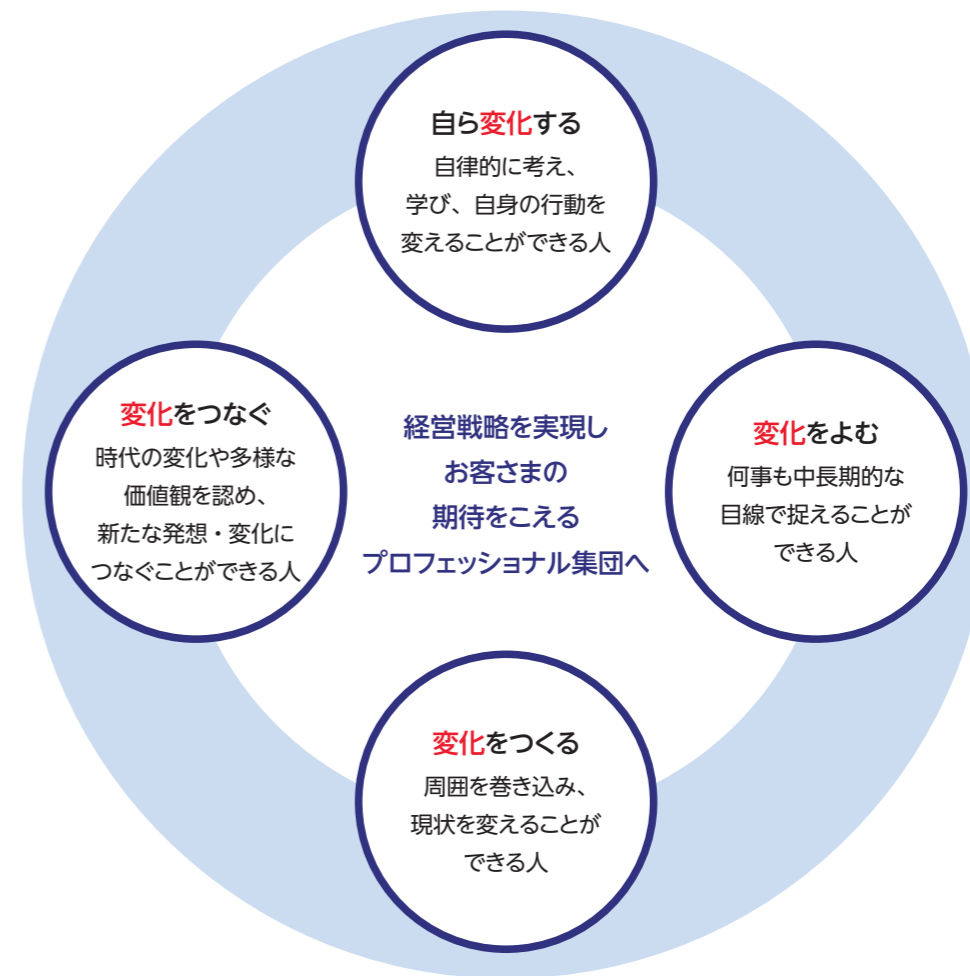
こうした考えのもと、第6次中期経営計画初年度には求める人材像をBe“CHANGE”と定めるとともに、人事制度改革を行いました。

行員一人ひとりが自らの能力を最大限発揮するとともに、モチベーションの向上を図ることで、グループ会社を含めた金融仲介機能を高度化し、地域のお客さまの多様なニーズにお応えしてまいります。

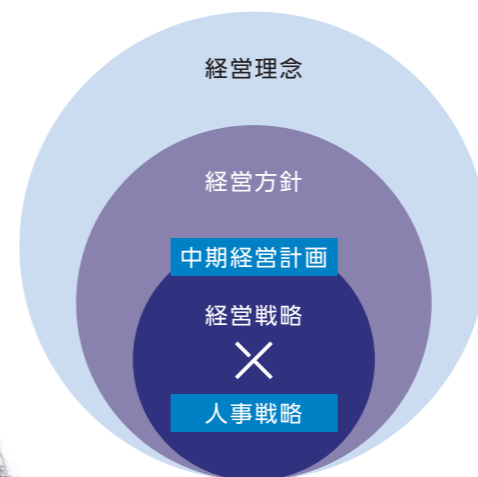


● 求める人材像「Be“CHANGE”」

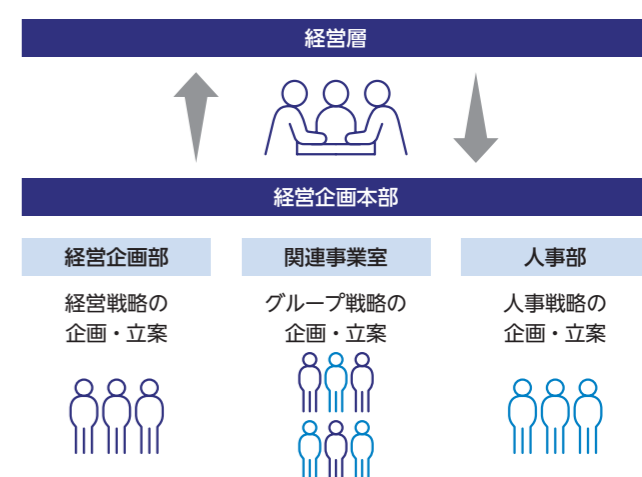
銀行という枠に捉われず、自ら新しい価値を生み出すことで、地域・お客さま・銀行の発展に貢献できる人材の育成をめざします。



人事戦略の位置づけ



経営戦略を実現するための人事戦略体制



# 地域との価値共創について

## 「大学×金融」で創る、地域活性化のモデル

### 「人」と「学び」の多様性

**原口** かつて組織は“一枚岩”が強いとされてきましたが、社会が大きく、また加速度的に変化しているいま、組織においても“多様性”を持つことが非常に重要となっています。若者が集う大学教育ではいかがですか。

**伊東** 色々な産業が融合し始めている社会において、新事業の創造や、様々な課題の解決には、ひとつの専門分野だけでなく多様な分野に関する知識や専門性を習得することが必要です。社会にとって、多様な学びを経験した人材を輩出していくことが重要だと感じており、大学においても複数の専門分野を持つ多様性のある学生を育てるため、他の国立大学に先駆けてひとつの学部の中での複数学科を統合し、全4学部において一学科1課程制にしました。また、学生の自主的な学びを促すため、アントレプレナーシップ教育にも注力しています。

**原口** おっしゃる通り多様な学びを経験した人材は社会にとって非常に重要です。当行においても同様で「新しいことを創りあげることができる人」でなければ、良いサービスを提供できないと考えています。当行は第6次中期経営計画で求める人材像を「Be“CHANGE”」と位置づけました。これは変化をよみ、つくって、つないでいく。そのために自ら変化できる人材が必要ということで、行員が自主的に学び、新たな業務に挑戦できる仕組みについても整備しました。

### 広がる地方銀行の役割

**原口** 最近、当行にも様々な相談が寄せられてきます。SDGs(持続可能な開発目標)やカーボンニュートラルにどう取り組んだら良いか、といった相談です。どこから手を付ければ良いのかお困りのお取引先さまも多いです。当行は2021年10月からSDGsコンサルティングを開始しましたが、2022年3月末までにすでに47件のご支援をさせていただきました。また、DXに関するご相談も増えています。当行グループには従業員数270名という地方銀行でも有数の規模を誇る紀陽情報システム株式会社という関連会社があり、この会社と連携してITコンサルティングにも取り組んでいます。

**伊東** 事業の変革にデジタル技術を活用するDXにも期待が高まっていますね。

**原口** 既存の事業を見直すうえで、DXへの期待は大きいと思います。ただ、ITやDXに大きな投資コストを掛けられる企業は限ら



れています。地域金融機関である当行としては、大きな投資が難しい小規模事業者さまのDXのご支援も大切な役割と考えており、その一環として、2022年度1,000社を目標としたデジタル経営診断や、3社程度のハンズオン支援を行うといった和歌山県の事業を受託しました。

**伊東** 金融というのは実に幅広い分野に関わりがありますね。地元で働くことの素晴らしさを体現されているように感じます。当大学は4学部約4,000人の規模で、和歌山県の学生が半分を占めていますが、卒業時の就職先を見ると2割しか地元に残りません。学生が得ることができる企業の情報は偏っていて、大都市圏の企業情報だけで就職先を決めているのが実情です。大学でも地元の魅力や地元で働くことの素晴らしさを伝えてい

DXの進展など、私たちがとりまく環境は急速に変化しています。また、全国的に人口や事業所数の減少が続くなか、持続可能な地域社会を実現するためには多くの課題を解決していく必要があります。紀陽銀行は地元である和歌山・大阪のより良い未来に向け、地域企業の本業支援や地方創生の取り組みを通じた、地域との価値共創をめざしています。

今般、当行同様に持続可能な社会の実現をめざし、教育という立場から尽力されている伊東千尋和歌山大学長と当行の原口裕之頭取が、地元社会の課題や地域おこし、それを担う人材像について対談を行いました。

助になると思います。

**伊東** 大学で地元でどのような企業があるのか、経済がどう成り立っているかを教えていくため、教育の在り方も変えていく必要があると感じています。社会を知るための学びは非常に重要です。とりわけ、銀行の役割やその役割が今後どう発展していくかを学生に伝えていただく機会をつくっていただければと考えています。

**原口** 多くの学生の方々に地元の会社に興味を持ってもらいたいですね。もちろん当行も含めてですが。

### 和歌山の事業環境

**原口** 学長のご出身は静岡で、1962年生まれと伺っています。私と同級生ですね。和歌山大学に赴任されてから20数年とお聞きしていますが、民間企業での勤務のご経験もあり、研究者としても卓越したキャリアをお持ちの学長から、和歌山周辺のポテンシャルはどのように見えていらっしゃいますか。

**伊東** 同級生だったんですね、存じ上げませんでした。和歌山は大都市圏へのアクセスに時間を要するうえ、平野部が少ないという特徴があります。大都市圏に比べると立地のハンディは否めません。しかし、新しい事業に挑み、チャンスをつかむ場としては、これほど恵まれた地域はありません。事業には拠点が必要ですが、和歌山周辺なら少ない初期投資で好条件の物件が確保できます。いまはインターネットもあるので、遠隔地であることはそれほどデメリットになりません。人間らしい暮らしをしながら、アイデアを事業化する……きっかけをつかみ、芽を出す場所としてはこれほど良い地域はありません。

**原口** なるほど。事業の立ち上げには絶好の場所かもしれませんね。ただ、和歌山は新しく事業をおこす人は少ないように感じます。

**伊東** 欧米ではやる気のある若者がどんどん起業しますが、日本では大学を出てすぐに起業するのはリスクだと考えがちです。先ほど頭取も「Be“CHANGE”」とおっしゃっていましたが、チャレンジ精神を持ち、リスクをおそれず新しいベネフィットを取りに行く。働く会社がどこであれ、新規事業の立案ができる、やるぞという気持ちを持っている人材を育てていきたいと考えています。

**原口** いきなり起業するのは確かにリスクもあります。しっかりとビジネスプランの方向付け、拠点の確保や資金の裏付け、事業進捗のアドバイスなども必要です。紀陽銀行では、創業支援として紀陽ビジネスセンターでの創業支援窓口の設置や、紀陽イノベーションサポートプログラムを実施してきました。また、

が、限界があります。地元企業を良く知り、地域活性化に向け、様々なことに取り組んでいる紀陽銀行さまにも力を借り、地元に残る学生を増やしていきたいと考えています。

**原口** 社会の変化に伴い、銀行に求められる役割も金融インフラの維持だけでなく、地域経済の持続的な発展に従来の役割を果たすことが求められるなど、大きく変化しました。学長のおっしゃるように、地元で働くことを志す若者が増えることは、地元経済にとって大きなプラスとなります。例えば、インターンシップ等の機会を通じ、当行が得意とする「事業性のお取引先さまのバリューチェーンすべての領域に関わる金融サービスの提供」の現場を直接体験することで、地元企業の活動や地域社会への貢献に対する理解が深まり、学生たちが地元で働くことを志す一



伊東 千尋 和歌山大学長

## Profile

1962（昭和37）年生まれ。名古屋大学で工学修士、理学博士の学位を取得後、化学系企業の勤務を経て、95年名古屋大学理学部で助手に。99年に和歌山大学システム工学部助教授、2007年に同システム工学部教授に。13年に同システム工学部長に続いて15年に同副学長を歴任。19年和歌山大学第17代学長に就任。

2022年5月にはスタートアップ・デットファンドへの出資もいたしました。行内に創業支援のノウハウを持った人材を育てるため、外部の創業支援専門会社に人材を派遣し、専門人材の育成も進めていく計画です。

**伊東** 和歌山大学でも起業時のインキュベーション（創業初期支援）施設を作って、スタートアップできる環境を作ろうとしています。新卒者がいきなり起業するケースは少ないかもしれませんが、都市部でビジネス経験を積んだ卒業生がUターンやIターンの形で起業するケースはありそうです。起業家の移住促進に向けた支援も必要となるでしょう。紀陽銀行さまの力を是非ともお貸しください。

**原口** もちろんです。ともに和歌山を盛り上げていきましょう。

## 地域との価値共創

**原口** 地域おこしの観点で和歌山を見ると、自然豊かで風光明媚な観光地も多く、観光客の誘致や和歌山ならではの特産品の販路開拓もテーマのひとつです。

**伊東** おっしゃる通りです。素晴らしい観光地や観光資源があちこちにあるのに、活かし切れているとはいえません。

**原口** ヒト・モノ・カネに加えて、最近は情報が大きな価値を持つ時代です。地域の皆さまとの連携では、情報発信の方法に加えて、旗振り役となるリーダーの役割も大切です。我々が力を合

わせて取り組みを進めていくことに加え、自治体との連携強化も重要です。学長は自治体の首長さんともお会いする機会が多いと聞いていますが、地域の活性化や振興策のご相談もあるのでしょうか。

**伊東** 対話の機会は積極的に設けるようにしています。首長の皆さまとの対話を深めるなかで、私どもから地域おこしのアイデアを提案すると、それは面白いと乗ってこられることもあります。頭取のご出身地であるすさみ町とはスマートシティ実行計画を進めていますし、由良町では地域課題解決型ビジネスプランコンテストを提案し、全国から39件もの応募がありました。観光学部の学生がローカルインターンシップで地域を活性化し、価値共創に向けた取り組みを進めています。和歌山周辺地域の活性化と持続可能な発展には、地域資源の掘りおこしに加えて、地域の活性化につながるアクションが欠かせません。

**原口** 和歌山県は高野山、白浜、串本、熊野など魅力的な観光資源が豊富です。当行も地方創生に資する取り組みとして、高野山デジタルミュージアムの開設、白浜町における観光振興支援、串本町での古民家再生支援やロケット発射事業への出資、また地域商社との連携なども積極的に行っています。

また、観光地の課題解決に向けた取り組みとして、和歌山大学と連携して、AIを活用した高野山観光ビッグデータの解析を行い、オーバーツーリズム対策にかかる共同研究を行いました。

**伊東** 高野山は、国内外からの注目度も高く、観光資源としても非常に魅力的です。高野山デジタルミュージアムを開設されることですが、高野山の文化的な背景を知ってこそ、高野山の価値も高まると思います。

**原口** 高野山は当行の新入行員研修でも利用させていただいておりますが、高野山デジタルミュージアムは最新のバーチャル技術を使って高野山の歴史を分かりやすく学習でき、コロナ収束後の観光の目玉になる可能性があります。

**伊東** 観光に加え、和歌山は特産品も豊富ですね。梅干し、ミカン、釜揚げしらすなど全国ブランドとしてすでに定着しているものもありますが、実山椒や漢方薬の原料となる薬草などの特産品もあります。全国区で勝負できる特産品が隠れたままなのが惜しいですね。

**原口** コロナ禍でインバウンドのお客さまも減少しています。当行では和歌山域内の特産品を域外に広めるため、2021年1月に地域商社「株式会社ロカリスト」に出資、地方創生に関する包括連携協定を締結しました。大阪の南海なんば駅2階中央改札口近くの直営店やホームページでこだわりの逸品を販売しています。

**伊東** 和歌山大学では、地域との価値共創のため、自治体や地域の皆さまとの連携強化を図り、地域の課題解決に取り組む全学横断的な組織である「紀伊半島価値共創基幹」を2020年4月に設置するとともに、地域で留学生を育てることをコンセプトに、2022年4月には「国際イニシアティブ基幹」を立ち上げました。インバウンド向け観光地域開発に外国人の目線は欠かせません。日本人とは異なる目線を持つ留学生を積極的に地域のフィールドワークに出そうと考えています。こうしたアイデアを実りあるもの

にするには、地域との価値共創を進め、新しい“たくらみ”を創り出していかないといけません。ロカリストの方にも「紀伊半島価値共創基幹」に参加していただき、ノウハウを研究者や学生にしっかり伝えて欲しいですね。和歌山を「日本文化を学ぶ“聖地”」にしたいと考えています。

## 地域社会の未来を担う人材の育成

**原口** 地域の持続的な成長には、地域のけん引役や、事業の在り方を根本的に変えていくことができる人材の育成が欠かせません。紀陽銀行では従来の「事業先の本業支援ができる“目利き力”」だけでなく「ITリテラシーが高い」人材育成のため、OJTも含めた様々なカリキュラムを用意しています。地元の存続や永続的な発展にはDXも必要な要素です。

**伊東** おっしゃる通り、DXは今後欠かせない要素ですね。和歌山大学にもシステム工学部があり、毎年100人規模で情報系の人材育成に取り組んでいます。そして、我々としては、ここでの学びを学術的なものとせず、いかに社会に活かせる知識とするかを大切に、「社会実装力」を有する人材を育てる」を目標にしています。学生は社会に出ると、大学での学びを社会のなかでどう活かすかが求められるため、研究や学びの成果を社会で活かす力を自分でつけてもらうことが大切になります。専門分野以外にも裾野を広げ、大学での学びを活かすことができる人材を育てたい。そのためにも、社会と大学との連携は必要です。

**原口** “社会実装力”のある学びは非常に大切だと思います。当行は地域金融機関として、地元企業をはじめとする地域社会と多くの接点を持っていますので、当行を介することで、学生にも様々な社会経験を積んでもらえるのではないかと思います。当行も以前より和歌山大学で「和歌山企業トップ経営論」として、当行役員の講義をさせていただいておりますが、今後より密度の濃い連携ができるよう考えていきます。地域の発展や価値向上に向けて、大学での学びを社会実装できる人材は、非常に頼もしい存在です。1人でも多く輩出できるよう、ぜひ協力させてください。

## 「学金」連携で取り組む地域活性化

**伊東** 和歌山周辺地域がどうしたら元気になれるのか、大学にも大いに責任があります。ただ、大学だけがいくら躍起になってもうまくはいかず地域社会、産業界、自治体などの産官学による連携がなければ井のなかの蛙で終わりがねえせん。

**原口** 私どもは和歌山・大阪に基盤を置く地域金融機関です。127年の歩みのなかで、地域の皆さまに支えていただき、恩返しをしなければならぬ場面も数多く経験してきました。和歌山大学は地域が頼りにする頭脳であると同時に、新しい息吹をもたらす若者たちが大勢います。まず、和歌山大学と紀陽銀行グループが様々な課題で連携できれば、地域に大きなインパクトを与えることができます。これまで以上に連携を強化できる分野として

どういったことがあるとお考えでしょうか。

**伊東** アントレプレナーシップ教育とそれを踏まえた創業支援分野での連携です。私はアントレプレナーシップとは一言でいうと「学生の主体的な学び」だと理解しています。主体性やチャレンジ精神を持った人材であれば、働く場所や働き方に関わらず、新たなことにチャレンジすることができます。また、地域活性化において創業を支援することは大切ですし、「創業とはどういったものか」を肌で経験することはアントレプレナーシップ教育においても重要です。こうした分野での連携を進めていければと考えています。

**原口** 創業支援は、当行のなかでも取り組みを強化すべき分野であると認識しており、地元での創業を総合的に支援していくための取り組みを進めていきたいと考えています。学生たちへのより実践的な学びの場の提供についてもどういった連携ができるか、ともに考えていきましょう。

**伊東** 地域の中核銀行である紀陽銀行さまには色々な“目利き力”を持つ人たちが多くいますし、これからの地域産業は“目利き力”を持った人が支えていくでしょう。和歌山大学でも“目利き力”を持ち、地域を支える人材育成に注力していきたいと考えていますので、様々な分野で連携していきたいですね。

**原口** 地域社会を発展させたいという思いは私も学長と同じです。紀陽銀行グループと和歌山大学の連携をさらに強化し、地域の発展にともに協力していきましょう。本日は有益なお話、有難うございました。



原口 裕之 紀陽銀行取締役頭取

## Profile

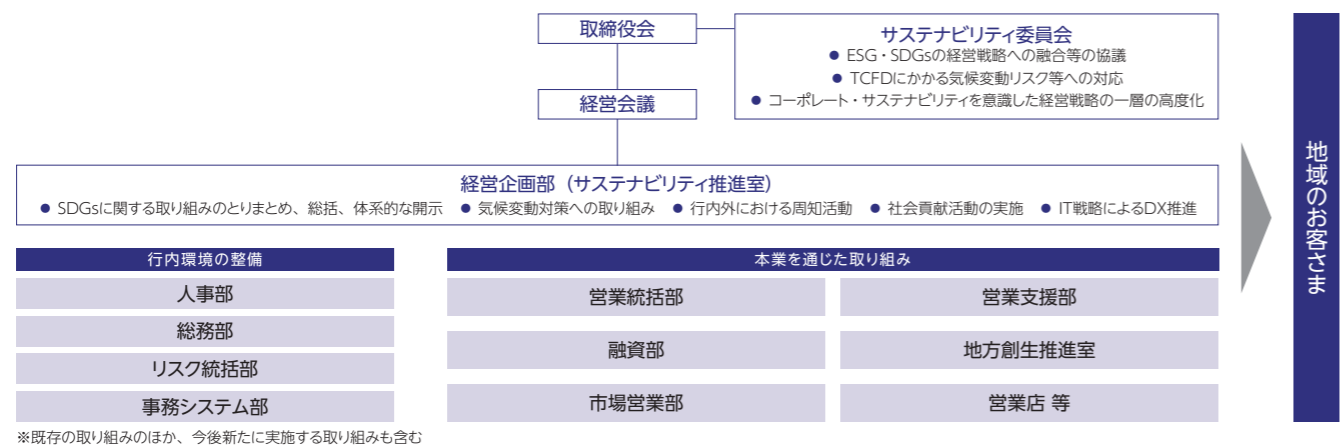
1962（昭和37）年生まれ。同志社大学法学部卒。85年の入行後、営業店と本部で幅広い業務に就く。営業店では、営業エリアの北から南まで、規模は大小ともに経験。本部では、事務システム部長や営業推進本部長、経営企画本部長を務め、2021年6月に取締役頭取に就任。これまでの経験を活かすため、中長期的なビジョンのもと前例を踏襲しない施策に取り組む。

## サステナビリティ経営

サステナブルな地域社会実現への貢献には、当行が持続可能な環境・社会・企業統治（ESG）の実現を含めたサステナビリティ経営を高度化する必要があります。

当行はコーポレート・サステナビリティを意識した経営の高度化と、グループの中長期的な企業価値向上のため、2022年4月1日付で「サステナビリティ委員会」「サステナビリティ推進室」を設置いたしました。

## サステナビリティ推進体制



## 「責任ある投融資に向けた取組方針」の制定

本業である投融資業務を通じて、お客さまとともに地域社会の持続可能性の向上に貢献することは、当行の地域金融機関としての使命です。環境や人権等社会的課題に配慮した投融資判断により地域社会の持続的な発展に貢献することを目的に、2019年9月に制定・公表した「責任ある投融資に向けた取組方針」について、2022年4月に改定いたしました。

### ● 責任ある投融資に向けた取組方針(抜粋)

#### 基本方針

投融資の取り組みにあたっては、ESG（環境・社会・ガバナンス）の視点に配慮し、社会の持続的な発展、社会的課題の解決に努める必要がある。そのため、環境・社会問題に真摯に向き合っている取引先に対しては、地域金融機関として適切な知見の提供や積極的な支援を行う。一方で、環境、社会に対してリスク、負の影響を与える投融資については慎重に判断し、その影響を低減・回避するよう努める。

#### 積極的に支援する分野

環境や社会に与えるポジティブな影響が大きく、地域の持続的な発展に寄与する、右記に示す取り組みに対して投融資取引を行う際には積極的に支援する。

- 1 森林資源や生物多様性の保全や環境負荷軽減に資する取組
- 2 再生可能エネルギー等の脱炭素化社会への移行にかかる取組
- 3 非財務情報の把握を前提とした顧客課題の解決に資する取組
- 4 地域振興や地域の雇用創出・維持につながる取組

#### リスク・負の影響を低減する分野

環境や社会に与えるネガティブな影響が大きいと考えられる、下記に示す特定の業種、セクターに対して投融資取引を行う際には十分に留意する。

- 1 兵器
- 2 石炭火力発電
- 3 森林伐採
- 4 パーム油農園開発

## 紀陽銀行SDGs宣言

紀陽銀行は、「地域社会の繁栄に貢献し、地域とともに歩む」という経営理念のもと、事業活動を通じてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献し、地域社会とともに持続的に成長していくことをめざします。

### ● 重点取組項目

#### 地域社会とのパートナーシップ

様々な経営資源を活用し、SDGsの地域社会への浸透を図るとともに、地域のお客さまのSDGsへの取り組みを支援します。



#### 地域経済の持続的な成長への貢献

地域の事業者さまへの本業支援を通じ、地域産業の発展と雇用創出を推進するとともに、IT技術等を活用した新しい金融インフラを構築することで、地域経済の持続的な成長に貢献します。



#### 多様な人材の活躍推進

働きがいの向上に努め、あらゆる人材が最大限に能力を発揮できる環境を整備することで質の高いサービスの提供を実現し、地域のお客さまの満足度向上に努めます。

